



企業内がん経験者コミュニティの活動と意義について ～サッポロビールの取組事例から～

がん医療フォーラム2023
活用しよう！相談と支え合いの場
2023年11月26日
サッポロビール株式会社
人事部 プランニング・ディレクター
村本高史

2 自己紹介

(1) 社歴

- ・1987年 サッポロビール入社。キャリアの2/3を人事部門で過ごす。
- ・30代の終りに思いがけず再び人事部門に
⇒自分の仕事は、「人と向かい合うこと」、「人の心に働き掛けること」!
- ・現在はプロフェッショナル職として、治療と仕事の両立支援策の推進等に取組み中。

(2) がん経験

①病歴、治療歴

- ・2009年頸部食道がん初発 放射線治療主体で寛解
- ・2011年再発、手術にて食道上部再建、喉頭全摘

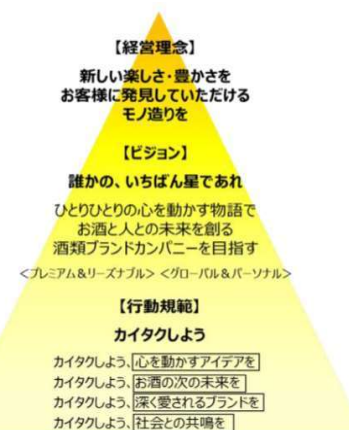
②食道発声の習得

- ・再発告知時、主治医から「食道発声を身につければ小さい声だけれど出るようになる」。
- ・入院前に(公社)銀鈴会の教室を事前見学し、ピアサポートの様子に感動。
「生きてさえいれば何とかなる」と大きな勇気と希望に。
- ・復帰後も会社を抜けて2年半通学。「自分の居場所」があることを実感。



1 サッポロビール(株) 会社概要

- ・本社所在地 東京都渋谷区恵比寿
- ・創業1876年、会社再編により2003年持株会社体制に
現在はサッポロホールディングスの下、酒類事業会社の位置づけ。
- ・売上収益3,193億円、事業利益82億円
内国内：売上収益2,454億円、事業利益85億円
サッポログループ 連結 売上収益4,784億円
事業利益 93億円
- ・従業員数:国内酒類事業2,174名、グループ 連結6,692名
※売上収益・事業利益、従業員数は2022年12月現在



3 がん経験者の社内コミュニティ「Can Stars」

(1) 名称の由来

- ・Can Stars (キャンスターズ)

「Can」はがんを表す“Cancer”と、参加者やコミュニティが今後できることを示す“Can”の両方の意味をもち、かつサッポロビールのシンボルである“☆ (スター)”と組み合わせたもの。「がんを経験したサッポロの社員たち」を象徴的に表現。

(2) 対象者

- ・がん経験者又はがん経験者の家族・遺族であり、主旨に賛同する希望者。

(3) 会員の種類と参加情報の開示範囲

- ・右表参照。

	活動内容	本人参加情報の開示範囲
本会員	会合を含めた活動全般に参画	会員(本会員・メール会員)、事務局 +所属事業場長・所属長、 地区本部・工場等の場合は総務担当部長
メール会員	メールのみの参加	会員(本会員・メール会員)、事務局

(4) 現在のメンバー

- ・2019年発足時の社内公募やその後の応募で集まった13名(男性5名、女性8名)
※本会員12名、メール会員1名。グループ会社含む。



3 がん経験者の社内コミュニティ「Can Stars」



(5) 目的

- ・ダイバーシティや健康経営の一環として、がん経験者が安心して働くことができる社内体制の整備。
- ・「がんアライアード」で「ゴールド」を受賞した当社宣言の具現化。

(6) 活動領域・内容

①ピアサポート（がん経験者同士の相互支援）

- ・ピア（仲間）として体験の相互共有、体験談の社内発信。

②両立環境づくり

- ・社内啓発活動への協力

③社会へのインパクト創出

- ・活動の社外発信協力や他企業の同主旨組織との交流・協働



3 がん経験者の社内コミュニティ「Can Stars」



(8) Can Starsが参画した「治療と就労の両立支援ガイドブック」の改定（2022）

- ・初版制作から5年経過し、社内外の環境変化を踏まえて改定。

☆改定のポイント

- ・本人編に加え、上司編、同僚編も作成。
- ・実際に両立を経験したCan Starsメンバーが改定に参画。
- ・がんアライ部のモデル「両立支援ガイドブック」等の外部リソースも活用。
- ・2023年よりサッポロホールディングス社のHPからPPT版ダウンロードを可能に。
⇒他企業等がこれを叩き台に自社ガイドブックを作成できるようにし、社会全体の取組みを推進。



・リンク先の下「サッポロビールのワークライフバランスの取組み」の中にリンクがあります

3 がん経験者の社内コミュニティ「Can Stars」



(7) 会員の声から

☆両立・支援のヒントや気づき

- ◇制度が整っていることに加え、人を大切にできる穏やかな社風に支えられている。
- ◇「治療に専念して」とよく言われるが、働きながら会社とのつながりを感じられるからこそ、治療にも前向きに取り組める。
- ◇同じ部位のがんでも病状や治療方法は様々だし、同じ治療方法(放射線や抗がん剤)でも副作用の有無や出方は人それぞれ。
- ◇もし身近に罹患した人がいたら、距離を置いたり、特別扱いしないで普通に接して欲しい。「普通」という言葉の解釈は人それぞれ。正解はない。一人ひとりに寄り添い、思いやりを持って接すれば、それでいいと思う。

☆働くことでの喜び・感謝、仲間たちへのメッセージ

- ◇自分の経験を会社や社員の役に立てたい。(多数)
- ◇今、こうして働けるのは会社のおかげであり、素晴らしい環境であることを知ってもらいたい。
- ◇多くの人にがんのことを正しく知ってもらいたい。定期検診は必ず受けてほしい。

☆企業内コミュニティの意味合いの大きさについて

- ◇自分ががんになった時、こんな場があればよかった。抱えるような状況にははいけない。
- ◇この会合に参加する事で、自分が元気になり、他の罹患者も元気付ける事ができると思っている。今後も継続参加し罹患者の輪を広げて、ダイバーシティを実践したい。

4 社内コミュニティに関する考察



☆がん経験者の社内コミュニティの今後の可能性

- ・死を直視したがんサバイバー同士が自社内で安心して話ができる場は自己効力感を再認識し、働きがいや生きている喜びを心から感じられる場にもなり、企業内コミュニティのピアサポートの役割は大きい。
- ・病院の相談支援センターやがんサロン、患者会と共に、企業内コミュニティが選択肢の一つになれば、サポートが必要な企業内サバイバーが気軽に参加できる場になるし、特にオンラインが仕事上も普通になった今、参加のハードルは以前より下がっている。
- ・課題は、ピアサポート力を企業合同研修等で維持向上させること、自社内の認知を上げて必要な人に情報を確実に届けること。
- ・課題を踏まえつつも、企業内コミュニティの可能性を強く認識し、今後は大企業に加えて中小企業等ともつながりをつくり、新たなピアサポートのフロンティアをさらに開拓すべく、Can Starsも社会に発信しながら中心的役割を果たしていきたい。